

3/1 関西学院大学主催 シンポジウム

地域に元気を:大学がつなぐイノベーション

-世界から学ぶイノベーションの“触媒”作用と生き生きとした地域創生-

関西学院大学神戸三田キャンパスが三田市と連携して挑む「イノベーションによる地域創生」をテーマにシンポジウムを開催する。シンポジウムでは、同じ課題に取り組んでいる米国ニューメキシコ大学、台湾国立交通大学とともに、世界に発信できる新しい地域創生のモデルについて議論する。

また、三田市および企業からは、関西学院大学への期待を各々の立場から発題して頂き、社会連携・地域貢献の推進のために関西学院大学として何が出来るかを考える。

※一般参加可、申し込み不要、参加費無料、駐車場有(無料)

■日時: 3月1日(火)13時~18時

■場所: 神戸三田キャンパス VI号館 201教室

■共催: ダイハツ工業株式会社

■後援: 三田市

■プログラム:

第1部 13時~16時15分

講演『イノベーションが支える地域創生』

- ① 森 哲男 氏 (三田市長)
- ② 金子 忠昭 氏 (関西学院大学教授)
- ③ Plamen Atanassov 氏 (米国ニューメキシコ大学教授)
- ④ 張 俊彦 氏 (台湾国立交通大学名誉教授)
- ⑤ Lisa Kuuttilla 氏 (米国ニューメキシコ大学経済開発局長 兼 技術移転&経済開発事務所CEO)
- ⑥ 田中 裕久 氏 (ダイハツ工業株式会社開発部エグゼクティブ・テクニカル・エキスパート)

第2部 16時30分~18時

パネル討論会

『産学官連携・国際交流によるイノベーション創出と地域活性化』

[パネリスト]

- Joe Cecchi 氏 (米国ニューメキシコ大学教授)
 星 エリ 氏 (米国ニューメキシコ大学技術移転& 経済開発事務所大学ベンチャー&国際事業マネージャー)
 城下 隆広 氏 (三田市理事[地域戦略担当])
 張 俊彦 氏
 田中 裕久 氏
 金子 忠昭 氏

[ファシリテーター]

水木 純一郎 氏 (関西学院大学教授)

■問い合わせ: 理工学部事務室 TEL 079・565・8300

次号 3月7日(月)発行予定

ASTRO-H 打ち上げ成功
平賀純子・理工学部准教授らが参画

理工学部物理学科の平賀純子・准教授らが研究開発に携わった宇宙のX線を観測するX線天文衛星「ASTRO-H」が2月17日(水)17:45(JST)、種子島宇宙センター(鹿児島県)から打ち上げられた。

世界中が見守る中、打ち上げは見事成功。衛星は無事に予定軌道に投入され、「ひとみ」と命名。「ひとみ」は宇宙航空研究開発機構(JAXA)やアメリカ航空宇宙局(NASA)をはじめ、国内外の大学・研究



H-IIAロケット30号機/X線天文衛星「ひとみ」(C)JAXA

機関の250人を超える研究者の緊密な協力により開発されたもので、2005年に打ち上げられ昨年役目を終えたX線天文衛星「すざく」に比べ観測装置の感度が高く、30倍優れたエネルギーの測定精度を有している。

平賀准教授は、搭載された4種類の検出器の中で、最大の視野(38分角)でX線天体の画像を捉えるX線CCDカメラ「軟X線撮像検出器(SXI)」の開発に貢献してきた。

昨年4月、理工学部に着任した平賀准教授は星が最後の大爆発を起こした後に残された天体「超新星残骸」の研究やX線検出器などの開発を専門とし、帰宅すると小学生と幼稚園児の子育てに奮闘している。「H2Aロケットのパーフェクトな打ち上げで日本の技術力の高さに感動しました。衛星は軌道に投入されてからが本番。現在も多くの開発メンバーが各所で衛星を運用しています。まずは、無事に衛星が天体を観測できる体制に落ち着けるよう見守り



SXI完成時(衛星に組み付ける前)の記念写真
中段左端が平賀准教授 (C)JAXA

ます。CCDカメラと世界初の検出器で、見たことのないブラックホールや超新星残骸の観測データが届くのが待ち遠しいですね」と期待を寄せる。

詳しくは下記JAXA特設サイト、プロジェクトサイトをご覧ください。

X線天文衛星「ひとみ」特設サイト

(http://fanfun.jaxa.jp/countdown/astro_h/)